

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果と考察、ならびに今後の本校の取組みについて

4月19日(火)に全国の中学3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について、本校の概要や今後の取組をお知らせします。

丹波市立柏原中学校

## 学力調査の結果と考察

### 【国語】…全国の平均正答率と同程度

- 成果 論理の展開などに注意して聞く問題や、自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫して話す問題に成果が見られた。表現の技法について理解し、短答式で答える問題の正答率が高かった。また、登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える問題や、場面と描写などを結びつけて内容を理解する問題に成果が見られた。
- 課題 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う問題や、文脈に即して漢字を正しく書く問題に課題が見られた。また、行書の特徴を理解し、漢字の行書の読みやすい書き方について理解する問題の正解率が低かった。

### 【数学】…全国の平均正答率よりやや低い

- 成果 三角形の合同条件を答える問題に関しては、成果が見られた。また、変化の割合などの与えられた条件より、一次関数の式を求める問題の正答率が比較的高かった。データの活用では、確率の計算やヒストグラムを用いた資料の読み取りに関して定着が見られた。
- 課題 素因数分解や連立方程式を解くなどの問題や図形の範囲では、特に証明問題に課題が見られた。また、関数の範囲で一次関数の式とグラフの結びつきやデータの活用では、箱ひげ図から分布を読み取る問題の正答率が低かった。

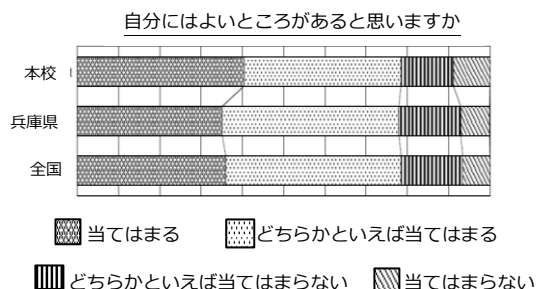
### 【理科】…全国の平均正答率と同程度

- 成果 思考力、判断力、表現力の問題に関して、実験結果から分析して解釈する問題に成果が見られた。授業の中で、データの比較やペアトークを活発に行っている成果が出ている。
- 課題 思考力、判断力、表現力の中で、特に「実験結果を検討して改善する」問題に関して正答率が低かった。また、無回答率も多かった。予想や仮説と異なる結果が出た場面、実験の結果が考察の根拠として十分かなど、実験操作や条件制御、それを検討・改善する力に課題が見られた。

## 質問紙調査の結果より

### 【成果】

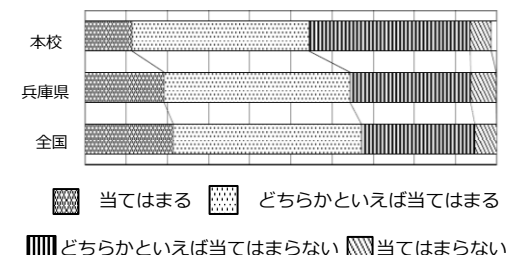
「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに、「当てはまる」が40.5%、そして「どちらかといえば当てはまる」と合わせて78.5%になる。1・2年時の「心のアンケート」より、自己肯定感が育っている。また、「家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。」の問いに「友達に聞く」が79.7%で、「自分で調べる」も79.7%であった。普段から学び合いの機会を多く取り入れているので、友達に聞いて勉強することが自然にできるようになっている。また、自分で調べて学習しようとする意識もついてきている。



### 【課題】

「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の問いに、2時間以上と答えたのは15.2%であった。また、「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の問いに、「2時間以上」が58.3%であった。そして、「普段、1日当たりどれくらいの時間、SNSや動画視聴をしますか」の問いには、2時間以上が64.5%であった。家庭では、テレビゲームやSNS・動画視聴に多くの時間を使い、家庭学習が定着していない。「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の問いでは、肯定的な回答が54.4%と半数ほどであった。将来、自信をもって挑戦できる心を教育活動全体を通して育みたい。

### 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか



## 今後の本校の取組みについて

- できないときのアドバイスだけでなく、頑張っている過程やできたときに褒める「評価言」をタイミングよく、分かりやすく生徒に伝える。(具体的には、取り組んでいる過程で「頑張っているね」や行動に感謝する「ありがとう」の言葉かけをする)
- キャリア教育を推進することで自己肯定感や自己有用感の醸成を図り、自立した生徒の育成を目指す。
- 家庭学習の目的を再確認し課題を工夫する。また、スマホ等の利用時間について、引き続き啓発を行っていく。
- 基礎学力の定着に向けて、漢字テストを今後も継続し、文章の中で正しく漢字を使えるようにしていきます。また、基本的な計算方法に対して、授業の中の短い時間を使って計算方法や公式など1・2年生の学習内容の復習を行う。
- 生徒が主体的に学び合う授業に改善を進めるため、さまざまな場面でペアトークや小グループ学習の機会を設け、伝えあい、話し合ったうえで、自信を持ってそれをうまくまとめて表現できる能力を高めていく。また、数学や理科等の授業の中で自分の言葉で説明する場面を作り、論理的に説明できる能力を高めることができるようにする。
- 実験で予想や仮説と異なる結果が出た場面で、結果が考察の根拠として十分かなど実験操作や条件を検討して改善するための話し合う時間を取り入れる。
- すべての教科で、ICT機器を効果的に授業の中に取り入れていきます。授業のユニバーサルデザイン化を継続することで、生徒全員が参加できる授業づくりを推進し、授業終盤での「振り返り」を大切にします。
- どの教科も、普段の生活や、将来、社会に出たときに役に立つ事例を授業の中で提示することを教師が意識し、その教科を学習することの大切さを伝えていく。



心豊かにたくましく、自立して生きる生徒の育成  
～ 学び合い、支え合い、鍛え合う ～